

平城京右京三条一坊一坪・二坪の調査 (平城第552次)

現在、奈良文化財研究所では国土交通省により進められている史跡朱雀大路跡等の整備に向けて、これにともなう発掘調査をおこなっています。今回の調査は、朱雀門前における朱雀大路の規模、ならびに平城京右京三条一坊一坪・二坪やその間を通る三条条間北小路の実態をあきらかにすることを目的として実施しました。調査期間は2015年12月16日から2016年3月30日までです。調査区は平城京右京三条一坊一・二坪の朱雀大路に面した東側に南北2箇所を設定しました。

主な調査の成果として、以下の4点があげられます。まず、北区・南区あわせて、朱雀大路西側溝を計約40mにわたって検出しました。朱雀大路の規模は、朱雀大路をはさんで東にある、左京三条一坊一・二坪の調査で検出した東側溝の成果とあわせると、側溝の心間で約74mとなります。これはこれまでの調査で判明している朱雀大路の規模と整合します。今回の調査では、これまでの調査よりも大きな面積で西側溝を検出したことにより、朱雀大路の規模や平城京の排水計画を検討するための十分な資料を得ることができました。

次に、右京三条一坊一坪の坪内道路が存在する可能性が高くなりました。右京三条一坊一坪の南北を

二分する位置付近で東西溝を検出しました。この位置は、左京三条一坊一坪で検出した坪内道路北側溝の位置とほぼ一致します。またこの溝と朱雀大路西側溝の接続地点で、朱雀大路西側溝を渡る橋を検出しました。この2点から、右京三条一坊一坪にも坪内道路が存在したと推測できます。坪内道路の幅については、北側溝と橋との位置関係等から、さらに検討が必要です。

3点目として、三条条間北小路の南北両側溝を確認しました。その規模は両側溝の心間で約5.5mです。二坪を区画する築地塀は削平されたと考えられます。しかし、雨落溝に相当する素掘溝を検出し、また周辺から出土した多量の瓦類の存在から、本来築地塀が存在したと推測できます。これは左京三条一坊二坪の成果と共通し、左京・右京とも二坪には、朱雀大路に面する東辺と、三条条間北小路に面する北辺に築地塀が築かれていたと考えられます。

最後に、右京三条一坊一坪は、少なくとも東辺と南辺に^{しゃへい}遮蔽施設がない可能性が高くなりました。左京三条一坊一坪にも遮蔽施設がないことが判明しており、朱雀門前は左京・右京の三条一坊一坪を取り込んだ東西約260m、南北約140mにおよぶ広場的な機能をもつ空間であったとみられます。このことは、朱雀門前の利用方法を考えるうえで重要な成果といえます。
(都城発掘調査部 丹羽 崇史)



北区全景 (南西から)



南区全景 (北から)